

NMO OfficeLetter

京セラの歴史沿革に学ぶ

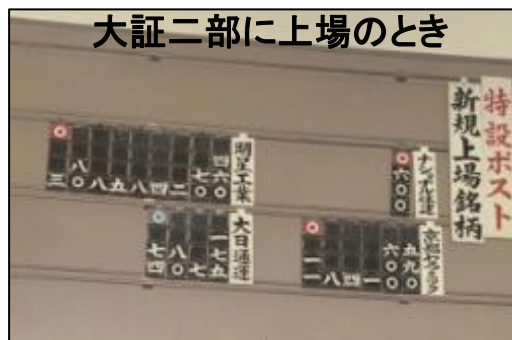
8月24日に京セラ(旧社名京都セラミック)の創業者である稲盛和夫氏が逝去された。享年90歳。逝去後、新聞やメディアで多くの報道があり、その過去から現在までの多くの功績はご存じの通りだ。今回は、その功績のベースになった京セラの歴史沿革を調べてみた。地元京都出身の筆者でも、意外と知らない側面があったことに気が付いた。創業はご存じ1959年(昭和34年)4月1日。稲盛さんの生年が昭和7年なので、当時27歳。創業の地は、京都市中京区西ノ京原町。西大路御池の交差点の少し北東の場所になる。出資してくれた宮木電機製作所の近くだったのか。現在でも鉄工所や工場が住宅と共存する場所だ。創業前に勤務していた株式会社松風工業を退



創業時の京都セラミックの従業員

職し、社員8名を引き連れての創業だった。資本金は300万円、従業員28名だった。ただ、創業時の登記上の代表取締役は宮木男也氏。出資をしてくれた宮木電機製作所の代表取締役だ。稲盛氏は取締役技術部長。5年間宮木氏が代表取締役で、その後青山政次氏が代表取締役に就任する。この方は松風工業時代の上司。稲盛氏は専務取締役だった。そして、1966年、創業から7年経過してようやく稲盛氏が代表取締役社長に就任する。意外なことに、稲盛氏の代表取締役社長の期間は、1985年10月ま

での約20年間だ。34歳で代表取締役社長に就任し、53歳で代表取締役社長を4代目の安城欽寿氏に譲り、本人は代表取締役会長職に就任。現在は10代目の谷本秀夫氏が代表取締役社長を務めている。最近では社長が4年間、そして会長職も4年間というサイクルで代表取締役の交代を実にスムーズに行っていることがわかる。1971年に大阪証券取引所第二部に上場。その翌年に山科区に本社を移転。その直後に東京証券取引所第二部に上場し、2年後に早くも東京、大阪ともに第一部に指定替え



大証二部に上場するとき



京セラ本社

になる。1982年10月に社名変更して京セラ株式会社になる。その後は、ヤシカの合併に始まり、第二電電の設立、サッカーの京都パープルサンガの設立、会社更生法を申請した三田工業へ支援を行った。この間、1998年8月に現在の伏見区竹田の本社に移転している。目立ったところでは、2006年に大阪ドームの命名権を取得し、京セラドーム大阪に改称。2008年三洋電機の携帯電話事業を継承した。その後、第二電電の創業からKDDIの設立、そして経営破綻したJALの再生を果たしてことは、みなさんのご存じの通りだ。